

組手A級男子無差別級（選抜12名）の見所

本大会の看板種目「2017年度フルコンタクト・テコンドー王者」を決定するA級男子組手無差別級は、過去、最高水準となった。4強の争いとなる。



左から鈴木雅博、八幡直明、倉田剛志



中澤 友

前年度優勝者で2連覇に挑戦する八幡直明（東京中野テコンドークラブ）の仕上がりが良く頭一つ抜けている。勤務先の東京消防庁某消防署の理解もあり、組手総見にも積極的に参加している。東京消防庁の名誉にかけて、絶対負けられない一戦となる。

八幡直明コメント

「連覇できるように頑張ります！」

打倒八幡に最も燃えているのが、鈴木雅博（湘南平塚テコンドークラブ）である。

鈴木は、身長166cm、体重66kgと小柄であるが、身長約190cmや体重90kg近い巨漢選手がひしめく本種目で過去2度も優勝してるのは立派の一言。体格的に恵まれない選手の目標といえる選手である。

鈴木は八幡の神奈川県湘南校体育会テコンドー部在学時の先輩である。

前年度、全日本FT大会A級男子無差別級準決勝戦において後輩の八幡に敗れたことを恥じており、その雪辱を果たすため燃えに燃えている。

両者が順調に勝ち進めば準決勝戦（リング第17試合）での対決となり、ベスト・ファイトが期待できる。

鈴木雅博コメント

「強さに体格や才能は関係ない。努力すれば誰だって強くなれる。無差別級で私が優勝し、それを証明したい！」

若い八幡と鈴木を追うのが決勝戦進出の常連、ベテランの倉田剛志（千葉柏テコンドークラブ）である。

倉田は、毎回、安定した実力を発揮しているのだが、決勝戦では実力が十分発揮できない。

持続的な強い精神力と勝負に対する執着心が課題といえる。

1回戦はシードであるが、新人の寺田皓成が勝ち上がってくると油断ならない。

寺田はかつての名門・神奈川大学体育会テコンドー部が久々に輩出した秘密兵器。

身長188cmの長身から放たれる重い蹴りは脅威である。

本年度予選会で1勝1敗の五分であり、元チャンピオンのプライドにかけて負けられない一戦となる。

倉田剛志コメント

「今年も全日本大会に挑戦できることを嬉しく思います。一つ一つの試合を全力で楽しみたいです」

この3名を猛追しているのが、中澤 友（大阪弁天町テコンドークラブ）である。

蹴美力では群を抜いている「浪速の蹴美」

昨年度予選会では鈴木雅博を破り、本年度予選会でもっともレベルの高かった関西大会一部無差別級では、巨漢の倉田および寺田を破り、堂々の優勝を果たしている。

課題は、3連覇を果たした趙哲来二段が指摘しているとおり

「予選会で使用するマットと比べれば狭い後樂園ホールのリング上で、予選会同様の動きができるかどうか」である。

前年度、全日本FT大会では、この指摘通り、初戦敗退の屈辱を味わっており、課題といえる。

中澤 友コメント

「全力で優勝を獲りに行きます！」